審査意見への対応を記載した書類(6月)

(目次) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。(改善事項)

• • • • 2

- 2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)・・・・・5

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1.(12)医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついては、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(9ページ)

(9ペーシ)
III
(12)医学薬学総合研究科の2専攻(3課
程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程
の編成・実施の方針)
ア 生命医療学専攻(博士課程)
【カリキュラム・ポリシー】
(略)
⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研
究への取組 <u>及び</u> レポートにより評価する。
(略)

新

(16) 各学位プログラムの目的、養成する 人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 | 人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて

ア-1 生命医療学専攻(博士課程)先進医 学プログラム

(略)

<P.15>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組、レポート及び研究
	成果により評価する。
	(略)

(略)

ア-2 生命医療学専攻 (博士課程) 先進薬 学プログラム

(略)

<P.17>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組、レポート及び研究
	<u>成果</u> により評価する。
	(略)

(略)

旧

(16) 各学位プログラムの目的、養成する の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて

ア-1 生命医療学専攻 (博士課程) 先進医 学プログラム

(略)

<P.15>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

ア-2 生命医療学専攻 (博士課程) 先進薬 学プログラム

(略)

<P.17>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

(新旧対照表)【資料1】養成する人材像と3つのポリシーの相関図

【資料2】カリキュラムマップ

旧
【資料1】養成する人材像と3つのポリシ
ーの相関図及び【資料2】カリキュラム
マップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対 照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則(2ページ)

新	IEI .
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第 11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(新旧対照表) 学則 (9ページ)

新	旧
<改正要旨>	<改正要旨>
(略)	(略)
2 改正の要点	2 改正の要点
(略)	(略)
(3)授業日時数を規定する。	(追加)
(<u>4</u>) (略)	(<u>3</u>) (略)
(<u>5</u>)(略)	(<u>4</u>) (略)
(6) (略)	(<u>5</u>)(略)
(<u>7</u>) (略)	(<u>6</u>) (略)

(8) (略)	(<u>7</u>) (略)
(<u>9</u>) (略)	(8) (略)
(<u>10</u>)(略)	(<u>9</u>) (略)
(<u>11</u>) (略)	(10)(略)

(新旧対照表) 学則 (11~12ページ)

新	旧
<新旧対照表(新)>	<新旧対照表(新)>
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関すること」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に 規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

ついては、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(63ページ)

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、単位修得の評価・認定、修了要件、学位申請、在籍中の 各種申請関係、学位論文に係る評価基準、 アドミッション・ポリシーや募集要項な ど入試関連などの大学院関係情報ととも に、大学の教育研究上の目的・方針、教育 研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・ 業績等、入学者数、収容定員、在学する学 生数、卒業・修了した者の数、進学者数、 就職者数、進学・就職等の状況、授業料・ 入学料・その他費用、教育研究環境、心身 の健康等に係る支援、大学評価結果なども 積極的に公表する。

旧

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、修了要件、学 位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文 に係る評価基準、アドミッション・ポリシ ーや募集要項など入試関連などの大学院 関係情報とともに、大学の教育研究上の目 的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、 各教員の学位・業績等、授業料・入学料・ その他費用、教育研究環境、心身の健康等 に係る支援、大学評価結果なども積極的に 公表する。

(目次) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。(改善事項)

• • • • 9

- 3. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)・・・・・16
- 4. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した 者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること」や同規則 第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関すること」についての情報がないことから、適切に公表すること。(是正事項)・・・・・・・・18

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1.(12)医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついては、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(10ページ)

新	IΕ
(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課	(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課
程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程	程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程
の編成・実施の方針)	の編成・実施の方針)
(略)	(略)
イ 生命医療科学専攻(博士前期課程)	イ 生命医療科学専攻(博士前期課程)
【カリキュラム・ポリシー】	【カリキュラム・ポリシー】
(略)	(略)
⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研	⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研
究への取組 <u>、</u> レポート <u>及び研究成果</u> により	究への取組 <u>及び</u> レポートにより評価する。
評価する。	
(略)	(略)

t.	
亚	F
*	"

(16) 各学位プログラムの目的、養成する (16) 各学位プログラムの目的、養成する の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて (略)

イ-1 生命医療科学専攻(博士前期課程) 生命医科学プログラム

(略)

<P.19>

カリキュラ (略) ム・ポリシー ⑦成績評価は、主体的・ 積極的な授業・研究への 取組、レポート及び研究 成果により評価する。 (略)

(略)

イ-2 生命医療科学専攻(博士前期課程) 生命薬科学プログラム

(略)

<P.21>

· - · ·	
カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組、レポート及び研究
	成果により評価する。
	(略)
(略)	

ĺΗ

人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 | 人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて (略)

> イ-1 生命医療科学専攻(博士前期課程) 生命医科学プログラム

(略)

< P.19 >

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

イ-2 生命医療科学専攻(博士前期課程) 生命薬科学プログラム

(略)

<P.21>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

(新旧対照表)【資料1】養成する人材像と3つのポリシーの相関図

【資料2】カリキュラムマップ

旧
【資料1】養成する人材像と3つのポリシ
ーの相関図及び【資料2】カリキュラム
マップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

2.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (10) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)の養成する人材像」において、「地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療科学(医科学・薬科学)研究者又は専門職医療人等」を掲げ、「1. (11) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)及び修了後の進路」において、「③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。」ことを本学のディプロマ・ポリシーに掲げていることを踏まえると、少なくとも「地域の保健医療」に関して理解を深めるための授業科目が必要であると考えられるが、シラバスを確認する限り、当該授業内容を取り扱う授業科目は「社会・予防医学概論」の1回分の授業(第7回)しかないように見受けられることから、ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な学びが、教育課程において適切に編成されているのか疑義がある。このため、地域の保健医療の現状等に対して理解を深めるために必要な授業科目が配置されていることについて、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーとして、「③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健 医療課題等を発見する能力を有している。」ことを掲げているが、これらを達成するために は、本県の地域医療体制や地域の保健医療の現状、本県で課題となっている疾患に関する基 礎知識などに関しての学びが必要である。

「社会・予防医学概論」においても、がんや循環器疾患などの生活習慣病に係る危険因子や予防、地域医療を担う薬剤師・薬局の視点からの健康増進・疾病予防等の取組について取り扱うこととしているが、疫学分野における基礎的知識・研究手法の修得や予防医療に関する知見の獲得に主眼を置いていることから、地域の保健医療に関して理解を深めるための授業科目「地域医療課題概論」をベーシック科目の必修科目(1単位)として新たに開講する。

これに伴い、科目数及び履修単位を変更するため、基本計画書、教育課程等の概要を改めるとともに、新たに「授業科目の概要」「シラバス」を作成する。また、学則の履修単位に係る箇所 (P.2,9,12)、「設置の趣旨等を記載した書類」P.34~35 のベーシック科目の単位数及び当該科目に関する説明、P.44 の修了要件、P.56 のくろしお寄附講座教員の担当コマ数を下記新旧対照表のとおり修正・追記する。あわせて【資料3】時間割、【資料5】履修モデルを修正する。

なお、この他にも、専門科目の「健康科学特論」において、高齢化や身近な疾患を取り上げることにより、地域の保健医療に対する理解を深めるための授業科目を配置しているところである。当該科目は生命医科学プログラムの科目ではあるが、生命薬科学プログラムの学生も選択が可能である。

(新旧対照表)学則(2ページ)

ΙĦ 第4章 教育方法等 第4章 教育方法等 (略) (略) (履修単位) (履修単位)

第 12 条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあっては 31 単位以上、博士後期課程 にあっては 23 単位以上、博士課程にあっ ては35単位以上履修しなければならない。

第 12 条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあっては 30 単位以上、博士後期課程 にあっては 23 単位以上、博士課程にあっ ては35単位以上履修しなければならない。

(新旧対昭表) 学則 (9 12ページ)

利用が無数/ 子則 ()、12 、 ン/	
旧	
<改正要旨>	
(略)	
2 改正の要点	
(略)	

単位以上、博士課程 38 単位以上を、博士 | 単位以上、博士課程 38 単位以上を、博士 前期課程 31 単位以上、博士後期課程 23 単 位以上、博士課程 35 単位以上に改める。

<新旧対照表(新)> 第4章 教育方法等

(略)

(履修単位)

第 12 条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあっては 31 単位以上、博士後期課程 にあっては 23 単位以上、博士課程にあっ ては35単位以上履修しなければならない。

(4)履修単位に関し、現行の修士課程30 (3)履修単位に関し、現行の修士課程30 前期課程30単位以上、博士後期課程23単 位以上、博士課程 35 単位以上に改める。

> <新旧対照表(新)> 第4章 教育方法等

(略)

(履修単位)

第 12 条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあっては 30 単位以上、博士後期課程 にあっては 23 単位以上、博士課程にあっ ては35単位以上履修しなければならない。

新

イ 生命医療科学専攻(博士前期課程) (略)

【ベーシック科目】

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保 健医療の課題等について学ぶことで、自ら 課題を発見する能力を身につけるため、必 修・選択のベーシック科目(修了要件は必 修4单位、選択2单位以上 計6单位以 上)を開設する。医科学・薬科学横断的な 研究能力の修得や英語力の涵養などにお いて特に重要な4科目は必修とし、その他 | は各学生のバックグラウンドや関心にあしは各学生のバックグラウンドや関心にあ わせて選択できるようにする。

イ 生命医療科学専攻(博士前期課程) (略)

旧

【ベーシック科目】

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保 健医療の課題等について学ぶことで、自ら 課題を発見する能力を身につけるため、必 修・選択のベーシック科目(修了要件は必 修3单位、選択2単位以上 計5単位以 上)を開設する。医科学・薬科学横断的な 研究能力の修得や英語力の涵養などにお いて特に重要な3科目は必修とし、その他 わせて選択できるようにする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(35ページ)

新	旧
「地域医療課題概論」(必修) では、本県	(12 行目に追加)
の地域医療の実態を学ぶとともに、認知症	
など高齢者に多い疾患や在宅緩和ケア、予	
防医療、医療・介護資源の確保、副作用管	
理等における地域医療の役割について学	
修することにより、地域の保健医療課題へ	
の関心・理解を深める構成とする。	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(44ページ)

新	IΞ
(5)修了要件	(5)修了要件
(略)	(略)
イ 生命医療科学専攻(博士前期課程)	イ 生命医療科学専攻(博士前期課程)
修了認定を受けるために必要な修得単	修了認定を受けるために必要な修得単
位数は、「共通科目」3単位、「ベーシック	位数は、「共通科目」3単位、「ベーシック
科目」6単位以上、「専門科目」6単位以上、	科目」5単位以上、「専門科目」6単位以上、
「特別科目(特別演習)(特別研究)」16 単	「特別科目(特別演習)(特別研究)」16 単
位、合計 31 単位以上とする。	位、合計 30 単位以上とする。

(略)	(略)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(56ページ)

新	旧
(6) くろしお寄附講座	(6) くろしお寄附講座
(略)	(略)

器官病態外科学において特別演習及び特別研究を担当する教員2名については、 くろしお寄附講座に所属する本学の教員 であるとともに、県内公的病院の診療部長 を兼務する医師でもあるが、2名のうち1 名の担当は特別演習及び特別研究のみ、も う1名は特別演習及び特別研究に加え講 義科目3コマであり、週1日の大学におけ る教育活動の一環として対応することが 可能である。

器官病態外科学において特別演習及び 特別研究を担当する教員 2名については、 くろしお寄附講座に所属する本学の教員 であるとともに、県内公的病院の診療部長 を兼務する医師でもあるが、2名のうち1 名の担当は特別演習及び特別研究のみ、も う1名は特別演習及び特別研究に加え講 義科目 1コマであり、週1日の大学におけ る教育活動の一環として対応することが 可能である。

(新旧対照表)【資料3】時間割、【資料5】履修モデル

新	旧
【資料3】時間割及び【資料5】履修モデ	【資料3】時間割及び【資料5】履修モデ
ルの(新)を参照	ルの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

3. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対 照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則 (2ページ)

新	IΕ
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(新旧対照表) 学則 (9ページ)

新	旧
<改正要旨>	<改正要旨>
(略)	(略)
2 改正の要点	2 改正の要点
(略)	(略)
(3)授業日時数を規定する。	(追加)
(<u>4</u>) (略)	(<u>3</u>) (略)
(<u>5</u>)(略)	(<u>4</u>) (略)
(<u>6</u>) (略)	(<u>5</u>)(略)
(<u>7</u>) (略)	(<u>6</u>)(略)

(8) (略)	(<u>7</u>) (略)
(<u>9</u>) (略)	(8) (略)
(<u>10</u>)(略)	(<u>9</u>) (略)
(<u>11</u>) (略)	(10)(略)

(新旧対照表) 学則 (11~12 ページ)

新	旧
<新旧対照表(新)>	<新旧対照表(新)>
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

4. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関すること」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に 規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

ついては、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(63ページ)

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、単位修得の評価・認定、修了要件、学位申請、在籍中の 各種申請関係、学位論文に係る評価基準、 アドミッション・ポリシーや募集要項な ど入試関連などの大学院関係情報ととも に、大学の教育研究上の目的・方針、教育 研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・ 業績等、入学者数、収容定員、在学する学 生数、卒業・修了した者の数、進学者数、 就職者数、進学・就職等の状況、授業料・ 入学料・その他費用、教育研究環境、心身 の健康等に係る支援、大学評価結果なども 積極的に公表する。

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、修了要件、学 位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文 に係る評価基準、アドミッション・ポリシ ーや募集要項など入試関連などの大学院 関係情報とともに、大学の教育研究上の目 的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、 各教員の学位・業績等、授業料・入学料・ その他費用、教育研究環境、心身の健康等 に係る支援、大学評価結果なども積極的に 公表する。

旧

(目次) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1.(12)医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。(改善事項)

• • • • 20

- 2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)・・・・・23

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

1.「設置の趣旨等を記載した書類」の「1.(12)医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついては、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(11ページ)

利口利思衣)故直の趣自寺を記載した音類((11 ')
新	IΞ
(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課	(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課
程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程	程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程
の編成・実施の方針)	の編成・実施の方針)
(略)	(略)
ウ 生命医療科学専攻(博士後期課程)	ウ 生命医療科学専攻(博士後期課程)
【カリキュラム・ポリシー】	【カリキュラム・ポリシー】
(略)	(略)
⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研	⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研
究への取組 <u>、</u> レポート <u>及び研究成果</u> により	究への取組 <u>及び</u> レポートにより評価する。
評価する。	
(略)	(略)

新

(16) 各学位プログラムの目的、養成する 人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 | 人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後 の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて (略)

ウ-1 生命医療科学専攻(博士後期課程) 生命医科学プログラム

(略)

< P.23 >

カリキュラ (略) ム・ポリシー ⑦成績評価は、主体的・ 積極的な授業・研究への 取組、レポート及び研究 成果により評価する。 (略)

(略)

ウ-2 生命医療科学専攻(博士後期課程) 生命薬科学プログラム

(略)

< P.25 >

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組、レポート及び研究
	成果により評価する。
	(略)
(冊分)	

(略)

(16) 各学位プログラムの目的、養成する の進路、カリキュラム・ポリシー並びにア ドミッション・ポリシーについて

旧

(略)

ウ-1 生命医療科学専攻(博士後期課程) 生命医科学プログラム

(略)

<P.23>

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

ウ-2 生命医療科学専攻(博士後期課程) 生命薬科学プログラム

(略)

< P.25 >

カリキュラ	(略)
ム・ポリシー	⑦成績評価は、主体的・
	積極的な授業・研究への
	取組 <u>及び</u> レポートによ
	り評価する。
	(略)

(略)

(新旧対照表)【資料1】養成する人材像と3つのポリシーの相関図

【資料2】カリキュラムマップ

IΞ
【資料1】養成する人材像と3つのポリシ
ーの相関図及び【資料2】カリキュラム
マップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対 照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則(2ページ)

新	IE IE
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35 週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(新旧対照表) 学則 (9ページ)

新	III
<改正要旨>	<改正要旨>
(略)	(略)
2 改正の要点	2 改正の要点
(略)	(略)
(3)授業日時数を規定する。	_(追加)
(<u>4</u>) (略)	(<u>3</u>) (略)
(<u>5</u>) (略)	(<u>4</u>) (略)
(<u>6</u>) (略)	(<u>5</u>)(略)
(<u>7</u>) (略)	(<u>6</u>) (略)

(8) (略)	(<u>7</u>) (略)
(<u>9</u>) (略)	(<u>8</u>) (略)
(<u>10</u>) (略)	(<u>9</u>) (略)
(<u>11</u>)(略)	(<u>10</u>) (略)

(新旧対照表) 学則 (11~12ページ)

新	旧
<新旧対照表(新)>	<新旧対照表(新)>
第3章 学年、学期、休業日及び授業日時数	第3章 学年、学期及び休業日
(略)	(略)
(学期及び休業日等)	(学期及び休業日等)
第9条 学期については、和歌山県立医科	第9条 学期については、和歌山県立医科
大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学	大学学則(平成 18 年和歌山県立医科大学
規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)	規則第 1 号。以 下「大学学則」という。)
第 10 条を準用する。	第 10 条を準用する。
2 休業日については、大学学則第11 条を	2 休業日については、大学学則第 11 条を
準用する。	準用する。
3 1年間の授業を行う期間は、35週にわ	
たることを原則とする。	
4 各授業科目の授業は、15 週を単位とし	
て行うものとする。	

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(D)

3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関すること」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に 規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

ついては、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(63ページ)

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、単位修得の評価・認定、修了要件、学位申請、在籍中の 各種申請関係、学位論文に係る評価基準、 アドミッション・ポリシーや募集要項な ど入試関連などの大学院関係情報ととも に、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・ 業績等、入学者数、収容定員、在学する学生数、卒業・修了した者の数、進学者数、 就職者数、進学・就職等の状況、授業料・ 入学料・その他費用、教育研究環境、心身 の健康等に係る支援、大学評価結果なども 積極的に公表する。

旧

(2)情報公表の内容

大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、 授業科目の内容・シラバス、修了要件、学 位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文 に係る評価基準、アドミッション・ポリシ ーや募集要項など入試関連などの大学院 関係情報とともに、大学の教育研究上の目 的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、 各教員の学位・業績等、授業料・入学料・ その他費用、教育研究環境、心身の健康等 に係る支援、大学評価結果なども積極的に 公表する。

養成する人材像と3つのポリシーの相関図(生命医療学専攻博士課程)

【資料1】

< 研究科の目的 > 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

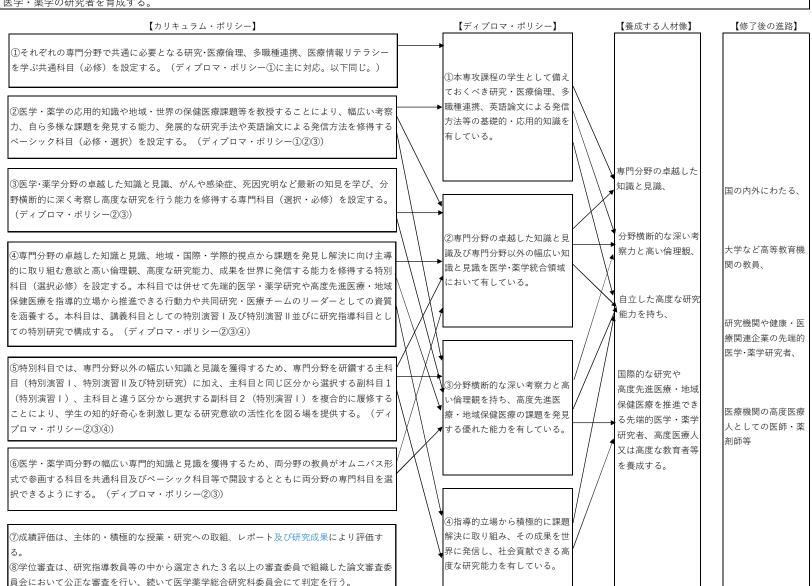
①先端的な医学・薬学の卓越した知識と見識、高い倫理観、課題解決のための高度な能力を身に付けたい人

②医学・薬学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な 課題を発見し、その解決に精力的に取り 組み、世界レベルで活動したい人

③リサーチマインドを持った高度医療 人、共同研究や医療チームのリーダーと して、高度先進医療・地域保健医療を積極 的に推進したい人

④医療分野において、大学、医療機関、 企業等に勤める社会人としてキャリア アップを図り、教育・研究・臨床活動を 高いレベルで実践し、社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医学・薬学の知識や研究能力、考察力、コミュニケーション力や英語力を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込む態度を有する人



養成する人材像と3つのポリシーの相関図(生命医療学専攻博士前期課程)

< 研究科の目的 > 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

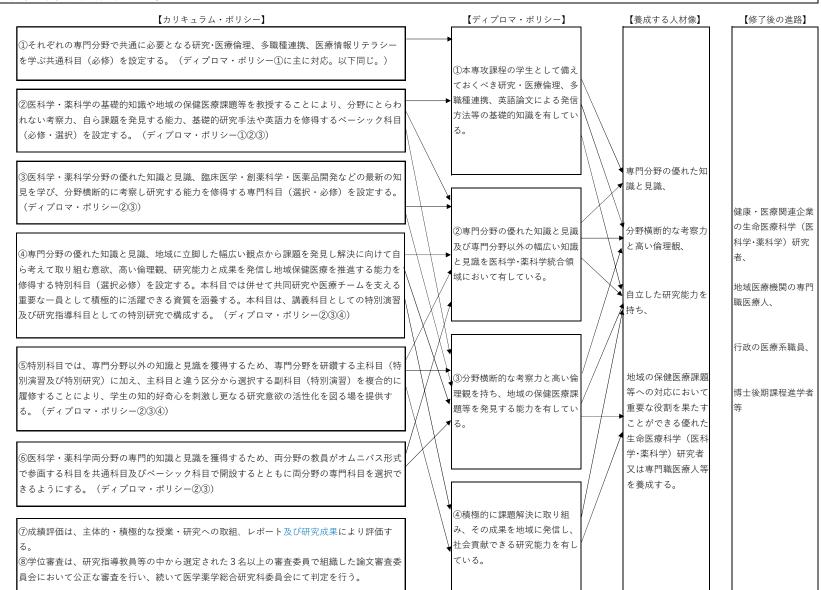
①先端的な医科学・薬科学の優れた知識と 見識、高い倫理観、課題解決のための能 力を身に付けたい人

②医科学・薬科学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、地域に軸足を置いて活動したい人

③リサーチマインドを持った専門職医療 人、共同研究や医療チームを支える重要 な一員として、地域保健医療を積極的に 推進したい人

④医療分野において、医療機関、企業等 に勤める社会人としてキャリアアップを 図り、研究・臨床活動を適切に実践し、 社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医 科学・薬科学の基礎的知識や研究能力、 考察力、コミュニケーション力や英語力 を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込 む態度を有する人



養成する人材像と3つのポリシーの相関図(生命医療学専攻博士後期課程)

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

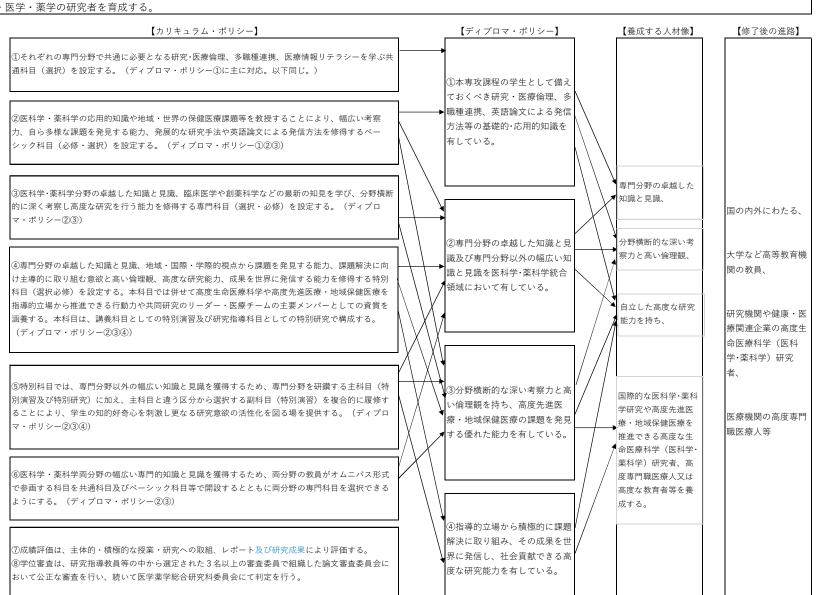
①先端的な医科学・薬科学の卓越した知識 と見識、高い倫理観、課題解決のための 高度な能力を身に付けたい人

②医科学・薬科学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、世界レベルで活動したい人

③リサーチマインドを持った高度医療 人、共同研究や医療チームのリーダーや 主要メンバーとして、高度先進医療・地域 保健医療を積極的に推進したい人

④医療分野において、大学、医療機関、 企業等に勤める社会人としてキャリア アップを図り、教育・研究・臨床活動を 高いレベルで実践し、社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医科学・薬科学の知識や研究能力、考察力、コミュニケーション力や英語力を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込む態度を有する人



<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

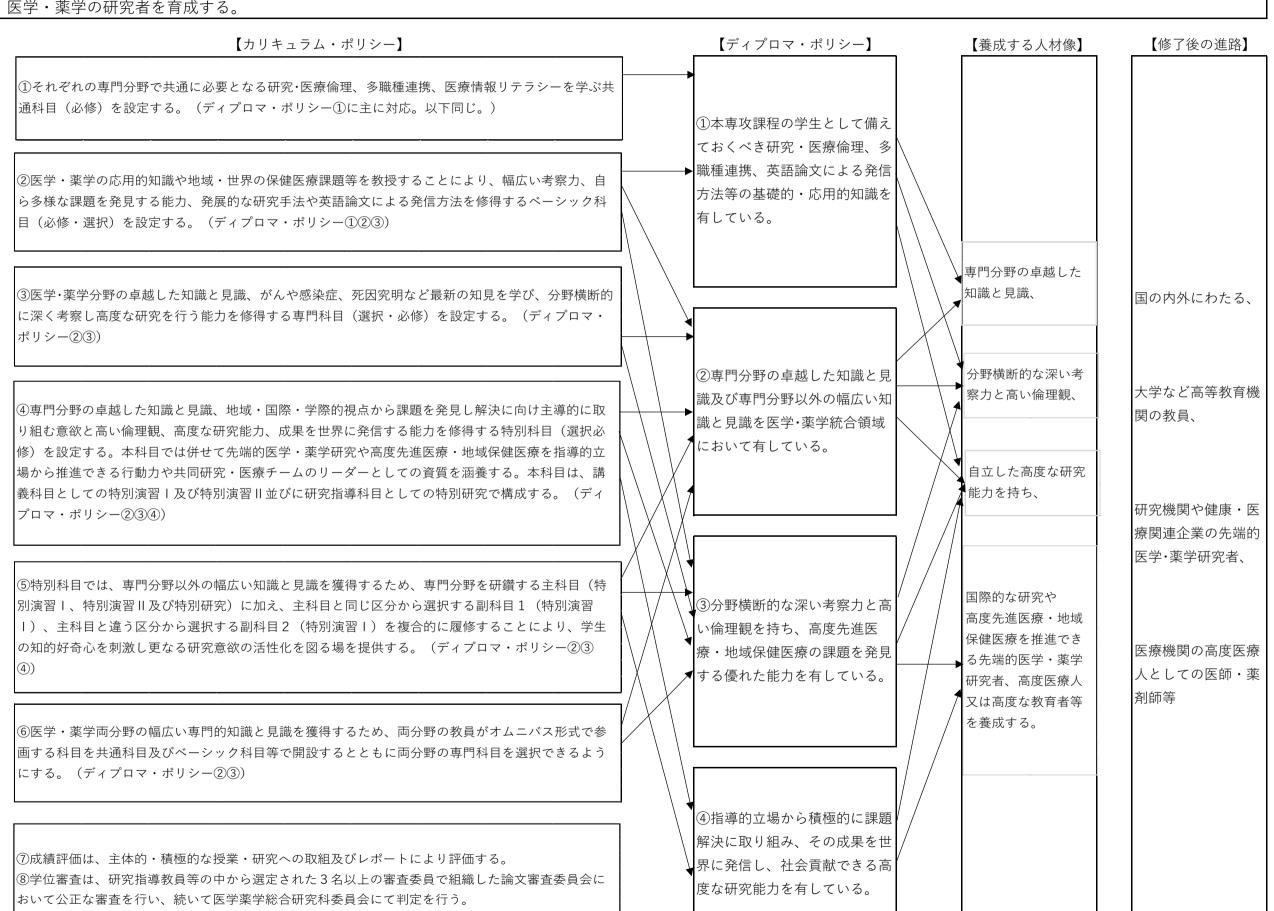
①先端的な医学·薬学の卓越した知識と見識、高い倫理観、課題解決のための高度な能力を身に付けたい人

②医学·薬学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、世界レベルで活動したい人

③リサーチマインドを持った高度医療 人、共同研究や医療チームのリーダーと して、高度先進医療・地域保健医療を積極 的に推進したい人

④医療分野において、大学、医療機関、 企業等に勤める社会人としてキャリア アップを図り、教育・研究・臨床活動を 高いレベルで実践し、社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医学・薬学の知識や研究能力、考察力、コミュニケーション力や英語力を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込む態度を有する人



養成する人材像と3つのポリシーの相関図(生命医療学専攻博士前期課程)

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

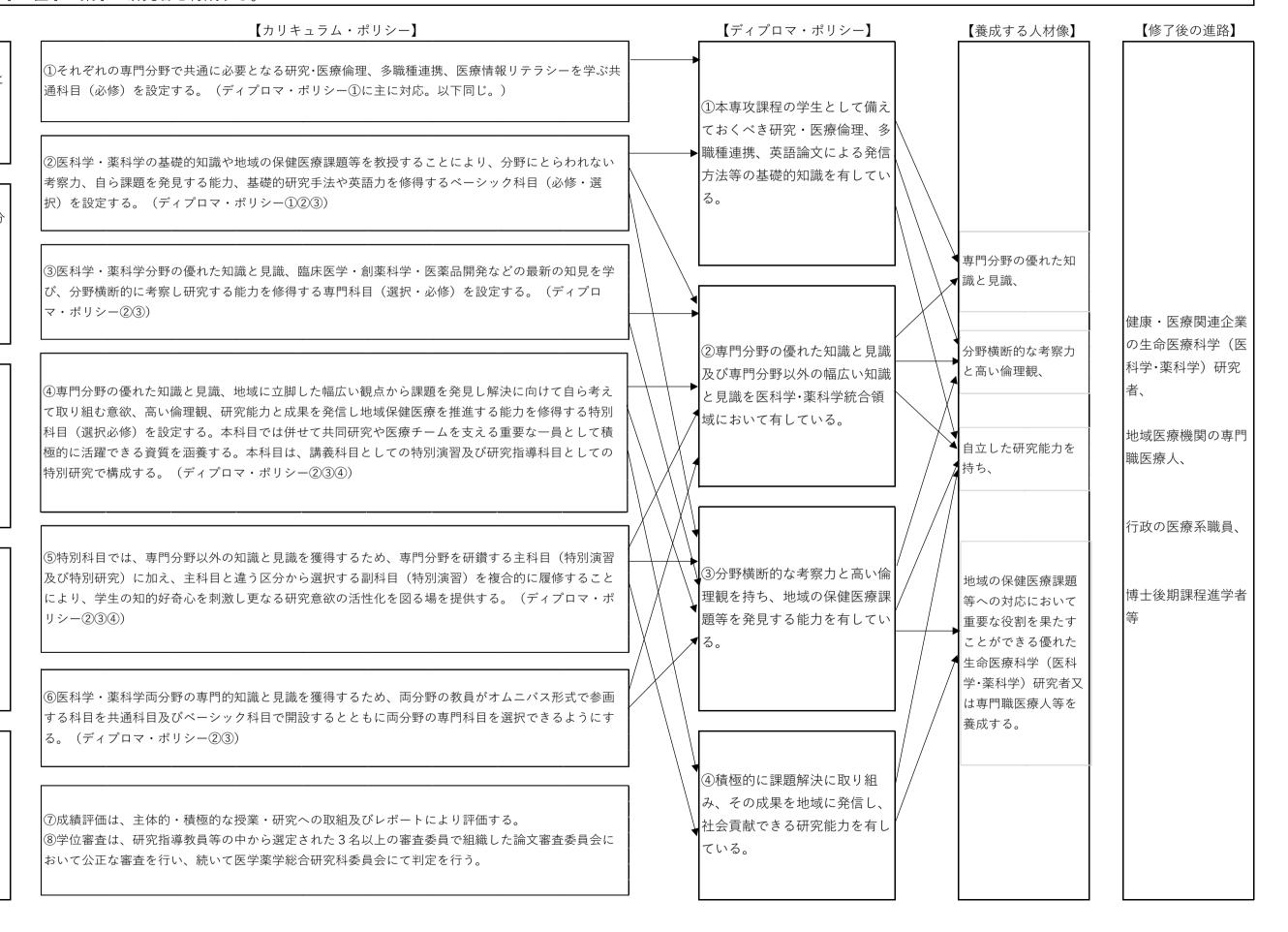
①先端的な医科学·薬科学の優れた知識と 見識、高い倫理観、課題解決のための能 力を身に付けたい人

②医科学·薬科学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、地域に軸足を置いて活動したい人

③リサーチマインドを持った専門職医療人、共同研究や医療チームを支える重要な一員として、地域保健医療を積極的に推進したい人

④医療分野において、医療機関、企業等に勤める社会人としてキャリアアップを 図り、研究・臨床活動を適切に実践し、 社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医科学・薬科学の基礎的知識や研究能力、 考察力、コミュニケーション力や英語力 を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込 む態度を有する人



養成する人材像と3つのポリシーの相関図(生命医療学専攻博士後期課程)

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に 貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

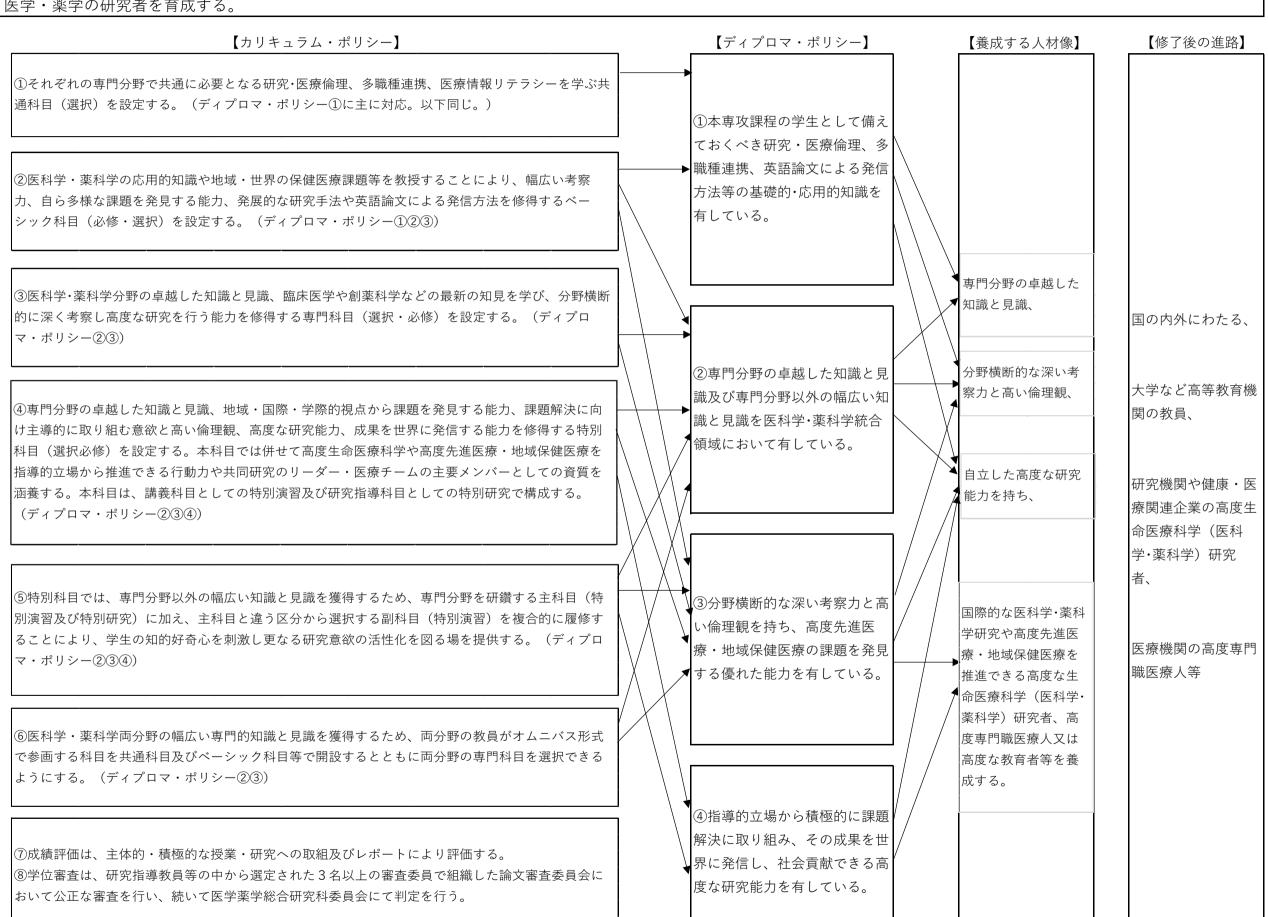
①先端的な医科学·薬科学の卓越した知識 と見識、高い倫理観、課題解決のための 高度な能力を身に付けたい人

②医科学·薬科学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、世界レベルで活動したい人

③リサーチマインドを持った高度医療人、共同研究や医療チームのリーダーや主要メンバーとして、高度先進医療・地域保健医療を積極的に推進したい人

④医療分野において、大学、医療機関、 企業等に勤める社会人としてキャリア アップを図り、教育・研究・臨床活動を 高いレベルで実践し、社会貢献したい人

⑤本専攻課程での学修の基盤となる、医科学・薬科学の知識や研究能力、考察力、コミュニケーション力や英語力を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込む態度を有する人



医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程) カリキュラムマップ [資料2]

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる先端的医学・薬学 研究者、高度医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。
- ②専門分野の卓越した知識と 見識及び専門分野以外の幅 広い知識と見識を医学・薬 学統合領域において有して いる。
- ③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的医学・薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目(特別演習I、特別演習I及び特別研究)に加え、主科目と同じ区分から選択する副科目1(特別演習I)、主科目と違う区分から選択する副科目2(特別演習I)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理·医療倫理学B

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目

多職種連携B

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーB

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

疫学方法特論

疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目

Advanced Academic English

英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目

基礎医学·薬学特論 I · Ⅱ

システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目

地域医療課題特論Ⅰ・Ⅱ

地域の保健医療課題について理解を深める科目

- 【医系型】分子生命科学特論、感染症学特論、病理病態学特論B、腫瘍学特論
- 【薬系型】最新臨床薬理学特論、免疫・発がん特論、神 経再生・発生・疾患学特論、
- 【統合型】死因究明学特論、医療データサイエンス学特論B

がんや感染症、死因究明などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目:特別演習 I · II +特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習 I (同区分+異なる区分) 課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目

成果を世界に発信する能力を修得する科目

共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する科目

更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療 科学(医科学・薬科学)研究者又は専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として 備えておくべき研究・医 療倫理、多職種連携、英 語論文による発信方法等 の基礎的知識を有してい る。

②専門分野の優れた知識と 見識及び専門分野以外の 幅広い知識と見識を医科 学・薬科学統合領域にお いて有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の 保健医療課題等を発見す る能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療課題等を教授することにより、 分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語 力を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学・薬科学分野の優れた知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目(特別演習及び特別研究)に加え、主科目と違う区分から選択する副科目(特別演習)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-8-

科目体系

研究倫理·医療倫理学A

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について基礎的な知識を修得し、高い倫 理観を養う科目

多職種連携A

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーA

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用に係る基本的手法を学ぶ科目

基礎的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を基礎的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

社会・予防医学概論

疫学分野における基礎的知識・研究手法について学ぶ科目

Academic English

英語論文の読み方・書き方、発信方法等を学ぶ科目

地域医療課題概論

地域の保健医療に関して理解を深めるための科目

基礎生体科学特論、生体分子解析学特論

生命医療科学研究の基本となる生物学・化学等に係る科目

基礎医科学·薬科学特論 I · Ⅱ

統合分子生理学、分子遺伝学、分子生物薬学、薬品化学など医科学・薬科学の基礎的な科目

【医系型】人体構造機能科学特論、機能調節薬理学特 論、微生物・ウイルス・免疫学特論、病理 病態学特論A、臨床医学特論、健康科学特論、 医療データサイエンス学特論A

【薬系型】安全科学特論、医薬品開発特論、最先端創 薬科学特論、健康機能調節学特論

臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・研究能力を修得する科目

主科目:特別演習+特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習(異なる区分)

課題解決に向けて自ら考えて取り組む意欲を養う科目 成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する科目 共同研究・医療チームを支える重要な一員として積極的に活 躍できる資質を涵養する科目 更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な医科学・薬科学研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる高度な生命医療科学(医科学・薬科学)研究者、高度専門職医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と 見識及び専門分野以外の幅 広い知識と見識を医科学・ 薬科学統合領域において有 している。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学・薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目(選択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目(特別演習及び特別研究)に加え、主科目と違う区分から選択する副科目(特別演習)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理·医療倫理学B

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目

多職種連携B

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーB

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

疫学方法特論

疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目

Advanced Academic English

英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目

基礎医学·薬学特論 I · Ⅱ

システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目

地域医療課題特論Ⅰ・Ⅱ

地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】臨床医学特講、健康科学特講

【薬系型】 創薬標的評価学特講、神経薬理学特講、基礎 薬科学特講

【統合型】がんに対する医学・薬学アプローチ

臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目:特別演習+特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習(異なる区分)

課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目 成果を世界に発信する能力を修得する科目

共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資

質を涵養する科目

更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程)先進医学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医学・医療の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、共同研究のリーダーとなりうる先端的医学研究者、医療チームのリーダーとして高度先進医療・地域保健医療を推進できる医師、又は大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。

②医学・医療の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 幅広い知識と見識を医学・ 薬学統合領域において有し ている。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択)を設定する。

医学・医療における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的医学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1 (特別演習 I)、主科目と違う区分から選択する副科目2 (特別演習 I)を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-10-

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学 B 必修 多職種連携 B 必修 医療情報リテラシーB 必修

ベーシック科目

発展的研究方法論
変学方法特論
Advanced Academic English
基礎医学・薬学特論 I
基礎医学・薬学特論 I
地域医療課題特論 I
地域医療課題特論 I
地域医療課題特論 I

専門科目

分子生命科学特論 感染症学特論 病理病態学特論B 3単位選択 腫瘍学特論 最新臨床薬理学特論 免疫・発がん特論 神経再生・発生・疾患学特論 死因究明学特論 医療データサイエンス学特論B 1単位選択

特別科目

A区分

社会医学特別演習 $I \cdot II$ 、同特別研究 形態機能医学特別演習 $I \cdot II$ 、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習 $I \cdot II$ 、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習 I ・ II 、同特別研究器官病態内科学特別演習 I ・ II 、同特別研究器官病態外科学特別演習 I ・ II 、同特別研究※主科目の他、副科目として特別演習 I を同区分及び異なる区分(薬系も含む)から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程)生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業での研究開発や地域医療機関等の臨床現場で共同研究や医療チームを支 える重要な一員として活躍できる優れた生命医療科学(医科学)研究者や専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生とし て備えておくべき研究・ 医療倫理, 多職種連携, 英語論文による発信方法 等の基礎的知識を有して いる。

②医科学分野の優れた知識 と見識及び専門分野以外 の知識と見識を医科学・ 薬科学統合領域において 有している。

③分野横断的な考察力と高 い倫理観を持ち、地域の 保健医療課題等を発見す る能力を有している。

4)積極的に課題解決に取り 組み、その成果を地域に 発信し、社会貢献できる 研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情 報リテラシーを学ぶ共涌科目(必修)を設定する。

分野横断的な幅広い観点から医科学の基礎的知識を教授することにより、分野 にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を 修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新 の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目(選択) を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し 解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信 し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。 本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に 活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究 指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副 科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意 欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオ ムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するととも に両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果に より評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織し た論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員 会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-11-

科目体系

共通科目

研究倫理· 医療倫理学A 必修 必修 多職種連携A 医療情報リテラシーA 必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論 必修 社会・予防医学概論 必修 必修 Academic English 地域医療課題概論 必修 基礎生体科学特論 生体分子解析学特論 2 単位選択

基礎医科学・薬科学特論I 基礎医科学·薬科学特論Ⅱ .

専門科目

人体構造機能科学特論 機能調節薬理学特論 微生物・ウイルス・免疫学特論 病理病熊学特論A

臨床医学特論 健康科学特論

医療データサイエンス学特論A 安全科学特論

医薬品開発特論

最先端創薬科学特論 健康機能調節学特論

4 単位

選択

2 単位選択

特別科目

A区分

社会医学特別演習、同特別研究 形熊機能医学特別演習、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習、同特別研究 器官病態內科学特別演習、同特別研究 器官病態外科学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (薬系も含む) から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程)生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や健康・医療関連企業で共同研究のリーダーとして行動できる高度生 命医療科学(医科学)研究者、地域医療機関等の現場で医療チームの主要メンバーとして活躍できる高度専門職医療人又は大学等の高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法の基礎 的・応用的知識を有してい る。
- ②医科学分野の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 知識と見識を医科学・薬科 学統合領域において有して いる。
- ③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。
- ④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目(選択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門的知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

 研究倫理・医療倫理学 B
 選択

 多職種連携 B
 選択

医療情報リテラシーB 選択

※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修 の場合、選択

ベーシック科目

発展的研究方法論

必修
疫学方法特論

Advanced Academic English

必修

Advanced Academic English

基礎医学・薬学特論I

いずれか選択

基礎医学·薬学特論 Ⅱ 地域医療課題特論 Ⅰ

η いずれか選択

1 単位選択

地域医療課題特論Ⅱ

専門科目

臨床医学特講 必修 健康科学特講 必修

創薬標的評価学特講

神経薬理学特講

基礎薬科学特講

がんに対する医学・薬学アプローチ 必修

特別科目

A区分

社会医学特別演習、同特別研究 形態機能医学特別演習、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習、同特別研究 器官病態内科学特別演習、同特別研究 器官病態外科学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (薬系も含む)から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程)先進薬学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬学に関する卓越した専門的知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、地域や世界で活躍できる先端的薬学研究者・教育者又は指導的立場から分野横断的に高度先進医療や創薬を含む臨床直結型研究を推進できる高度医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。

②薬学に関する卓越した専門 的知識と見識及び専門分野 以外の幅広い知識と見識を 医学・薬学統合領域におい て有している。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、先端的 な薬学研究や高度先進医療 の課題を発見する優れた能 力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

薬学分野における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目 1 (特別演習 I)、主科目と違う区分から選択する副科目 2 (特別演習 I) を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-13-

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学 B 必修 多職種連携 B 必修 医療情報リテラシーB 必修

ベーシック科目

発展的研究方法論 疫学方法特論 Advanced Academic English 基礎医学・薬学特論 I 基礎医学・薬学特論 I 地域医療課題特論 I 地域医療課題特論 I

専門科目

分子生命科学特論 感染症学特論 病理病態学特論B 1単位選択 腫瘍学特論 最新臨床薬理学特論 必修 免疫・発がん特論 必修 神経再生・発生・疾患学特論 必修 死因究明学特論 医療データサイエンス学特論B 1単位選択

特別科目

C区分

物理·化学薬学特別演習 I · II 、同特別研究生命薬学特別演習 I · II 、同特別研究D区分

医療薬学特別演習 I ・ II 、同特別研究 臨床・社会薬学特別演習 I ・ II 、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習 I を同区分及び 異なる区分(医系も含む)から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程)生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学に関する幅広い専門的知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業(製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など)での創薬などの研究、開発に携わる研究者、医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた生命医療科学(薬科学)研究者又は専門職医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・ 医療倫理、多職種連携、 英語論文による発信方法 等の基礎的知識を有している。

②薬科学分野に関する幅広い知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り 組み、その成果を地域に 発信し、社会貢献できる 研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

分野横断的な幅広い観点から薬科学の基礎的知識を教授することにより、分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を 修得するベーシック科目(必修・選択)として設定する。

薬科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目(選択・ 必修)を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、高い倫理観、幅広い視野、自ら考えて研究し 課題解決する意欲と能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科 目では併せて健康関連企業における課題に積極的に取り組む行動力と資質を 身に付ける。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目として の特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑚する主科目、主科目と違う区分から選択する副 科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意 欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学における専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに、両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-14-

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学A 必修 多職種連携A 必修 医療情報リテラシーA 必修

ベーシック科目

 基礎的研究方法論
 必修

 社会・予防医学概論
 必修

 Academic English
 必修

 地域医療課題概論
 必修

基礎生体科学特論 生体分子解析学特論 基礎医科学・薬科学特論 I

2 単位選択

基礎医科学・薬科学特論Ⅱ

専門科目

人体構造機能科学特論 機能調節薬理学特論 微生物・ウイルス・免疫学特論

病理病態学特論A

臨床医学特論 健康科学特論

医療データサイエンス学特論A

安全科学特論 必修 医薬品開発特論 必修 最先端創薬科学特論 必修 健康機能調節学特論 必修 2 単位 選択

特別科目

C区分

物理·化学薬学特別演習、同特別研究 生命薬学特別演習、同特別研究

D区分

医療薬学特別演習、同特別研究 臨床・社会薬学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分

(医系も含む) から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程)生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、国際的に通用する自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や地域の健康・医療関連企業等(製薬・医療・化 学・食品・香料・化粧品など)で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学(薬科学)研究者や大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。

②薬科学分野の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 知識と見識を医科学・薬科 学統合領域において有して いる。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課 題解決に取り組み、その成 果を世界に発信する高度な 研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情 報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することに より、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英 語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学 び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目(選 択・必修)を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力、地域・国際・ 学際的視点から課題を発見し解決に向けて主導的に取り組む意欲と高い倫理 観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択 必修)を設定する。本科目は講義科目としての特別演習及び研究指導科目と しての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副 科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門的知識 の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教 員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設す るとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果に より評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織し た論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員 会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-15-

科目体系

共通科目

選択 研究倫理·医療倫理学 B 多職種連携B

選択 医療情報リテラシーB 選択

※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修 の場合、選択

ベーシック科目

必修 発展的研究方法論 必修 疫学方法特論 Advanced Academic English 必修

基礎医学・薬学特論 I

↑いずれか選択

基礎医学·薬学特論 Ⅱ 地域医療課題特論 T

γ いずれか選択 地域医療課題特論Ⅱ

専門科目

臨床医学特講 健康科学特講 7 1 単位選択

創薬標的評価学特講

2 単位選択 神経薬理学特講

基礎薬科学特講

がんに対する医学・薬学アプローチ 必修

特別科目

C区分

物理・化学薬学特別演習、同特別研究 牛命薬学特別演習、同特別研究 D区分

医療薬学特別演習、同特別研究

臨床・社会薬学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分

(医系も含む)から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程) カリキュラムマップ [資料2]

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる先端的医学・薬学 研究者、高度医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と 見識及び専門分野以外の幅 広い知識と見識を医学・薬 学統合領域において有して いる。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的医学・薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目(特別演習 I、特別演習 I 及び特別研究)に加え、主科目と同じ区分から選択する副科目 1 (特別演習 1)、主科目と違う区分から選択する副科目 2 (特別演習 1)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する.

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理·医療倫理学 B

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目 多職種連携 B

多職種連携の実践について学ぶ科目

夕帆性迷捞の夫歧に ノいく子ふ科

医療情報リテラシーB

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

疫学方法特論

疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目

Advanced Academic English

英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目

基礎医学·薬学特論 I · Ⅱ

システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目

地域医療課題特論Ⅰ・Ⅱ

地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】分子生命科学特論、感染症学特論、病理病態 学特論B、腫瘍学特論

【薬系型】最新臨床薬理学特論、免疫・発がん特論、神経再生・発生・疾患学特論、

【統合型】死因究明学特論、医療データサイエンス学特論R

がんや感染症、死因究明などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目:特別演習 I · Ⅱ + 特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習 I (同区分+異なる区分)

課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目

成果を世界に発信する能力を修得する科目

共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する科目

更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療 科学(医科学・薬科学)研究者又は専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①本専攻課程の学生として 備えておくべき研究・医 療倫理、多職種連携、英 語論文による発信方法等 の基礎的知識を有してい る。
- ②専門分野の優れた知識と 見識及び専門分野以外の 幅広い知識と見識を医科 学・薬科学統合領域にお いて有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療課題等を教授することにより、 分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語 力を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学・薬科学分野の優れた知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目(特別演習及び特別研究)に加え、主科目と違う区分から選択する副科目(特別演習)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理・医療倫理学A

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について基礎的な知識を修得し、高い倫 理観を養う科目

多職種連携A

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーA

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用に係る基本的手法を学ぶ科目

基礎的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を基礎的な内容で学 び、自立的に研究できる能力を養う科目

社会・予防医学概論

疫学分野における基礎的知識・研究手法について学ぶ科目

Academic English

英語論文の読み方・書き方、発信方法等を学ぶ科目基礎生体科学特論、生体分子解析学特論

生命医療科学研究の基本となる生物学・化学等に係る科目 基礎医科学・薬科学特論 I・II

統合分子生理学、分子遺伝学、分子生物薬学、薬品化学など医科学・薬科学の基礎的な科目

- 【医系型】人体構造機能科学特論、機能調節薬理学特論、微生物・ウイルス・免疫学特論、病理病態学特論A、臨床医学特論、健康科学特論、医療データサイエンス学特論A
- 【薬系型】安全科学特論、医薬品開発特論、最先端創 薬科学特論、健康機能調節学特論

臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・研究能力を修得する科目

主科目:特別演習+特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習(異なる区分)

課題解決に向けて自ら考えて取り組む意欲を養う科目成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する科目共同研究・医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する科目

更なる研究意欲の活性化を図る科目

-審査意見(6月)(資料)-17-

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な医科学・薬科学研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる高度な生命医療科学(医科学・薬科学)研究者、高度専門職医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と 見識及び専門分野以外の幅 広い知識と見識を医科学・ 薬科学統合領域において有 している。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学・薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の 知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科 目(選択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を 研鑽する主科目(特別演習及び特別研究)に加え、主科目と違う区分から選択 する副科目(特別演習)を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を 刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

-審査意見(6月)(資料)-18-

科目体系

研究倫理·医療倫理学 B

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床 現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目

多職種連携B

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーB

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、 医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

疫学方法特論

疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目

Advanced Academic English

英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目

基礎医学・薬学特論Ⅰ・Ⅱ

システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目

地域医療課題特論 I · Ⅱ

地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】臨床医学特講、健康科学特講

【薬系型】創薬標的評価学特講、神経薬理学特講、基礎 薬科学特講

【統合型】がんに対する医学・薬学アプローチ

臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目 分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目:特別演習+特別研究(研究指導科目)

副科目:特別演習(異なる区分)

課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目

成果を世界に発信する能力を修得する科目

共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資

質を涵養する科目

更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程)先進医学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医学・医療の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、共同研究のリーダーとなりうる先端的医学研究者、医療チームのリーダーとして高度先進医療・地域保健医療を推進できる医師、又は大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。

②医学・医療の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 幅広い知識と見識を医学・ 薬学統合領域において有し ている。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択)を設定する。

医学・医療における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的医学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目 1 (特別演習 1)、主科目と違う区分から選択する副科目 2 (特別演習 1)を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学 B必修多職種連携 B必修医療情報リテラシーB必修

ベーシック科目

発展的研究方法論 疫学方法特論 必修 Advanced Academic English 基礎医学・薬学特論 I 地域医療課題特論 I 地域医療課題特論 I

専門科目

分子生命科学特論 感染症学特論 病理病態学特論B 腫瘍学特論 最新臨床薬理学特論 免疫・発がん特論 神経再生・発生・疾患学特論 死因究明学特論 医療データサイエンス学特論B

特別科目

A区分

社会医学特別演習 $\mathbf{I} \cdot \mathbf{\Pi}$ 、同特別研究 形態機能医学特別演習 $\mathbf{I} \cdot \mathbf{\Pi}$ 、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習 $\mathbf{I} \cdot \mathbf{\Pi}$ 、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習 I ・ II 、同特別研究 器官病態内科学特別演習 I ・ II 、同特別研究 器官病態外科学特別演習 I ・ II 、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習 I を同区分及び 異なる区分(薬系も含む)から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程)生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業での研究開発や地域医療機関等の臨床現場で共同研究や医療チームを支 える重要な一員として活躍できる優れた生命医療科学(医科学)研究者や専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生とし て備えておくべき研究・ 医療倫理、多職種連携、 英語論文による発信方法 等の基礎的知識を有して いる。

②医科学分野の優れた知識 と見識及び専門分野以外 の知識と見識を医科学・ 薬科学統合領域において 有している。

③分野横断的な考察力と高 い倫理観を持ち、地域の 保健医療課題等を発見す る能力を有している。

4)積極的に課題解決に取り 組み、その成果を地域に 発信し、社会貢献できる 研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情 報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

分野横断的な幅広い観点から医科学の基礎的知識を教授することにより、分野 にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を 修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新 の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目(選択) を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し 解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信 し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。 本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に 活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究 指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副 科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意 欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオ ムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するととも に両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価す

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織し た論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員 会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理·医療倫理学A 必修 必修 多職種連携A 必修 医療情報リテラシーA

ベーシック科目

基礎的研究方法論 必修 社会・予防医学概論 必修 必修 Academic English 基礎生体科学特論

生体分子解析学特論 基礎医科学・薬科学特論 I

基礎医科学・薬科学特論Ⅱ

2 単位選択

専門科目

人体構造機能科学特論 機能調節薬理学特論

微生物・ウイルス・免疫学特論

病理病熊学特論A 臨床医学特論

健康科学特論 医療データサイエンス学特論A

安全科学特論 医薬品開発特論 最先端創薬科学特論

健康機能調節学特論

2 単位選択

4 単位

選択

特別科目

A区分

社会医学特別演習、同特別研究 形態機能医学特別演習、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習、同特別研究 器官病態内科学特別演習、同特別研究 器官病態外科学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (薬系も含む) から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程)生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や健康・医療関連企業で共同研究のリーダーとして行動できる高度生 命医療科学(医科学)研究者、地域医療機関等の現場で医療チームの主要メンバーとして活躍できる高度専門職医療人又は大学等の高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法の基礎 的・応用的知識を有してい る。

②医科学分野の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 知識と見識を医科学・薬科 学統合領域において有して いる。

③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課 題解決に取り組み、その成 果を世界に発信し、社会貢 献できる高度な研究能力を 有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共涌に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情 報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することに より、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英 語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学 び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目(選 択・必修)を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見す る能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能 力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。 本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的 立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メン バーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研 究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副 科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門的知識 の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教 員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設す るとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価す る。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織し た論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員 会にて判定を行う。

科目体系

共诵科目

研究倫理·医療倫理学B 選択 多職種連携B 選択 医療情報リテラシーB 選択

※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修 の場合、選択

ベーシック科目

発展的研究方法論 必修 疫学方法特論 必修 必修 Advanced Academic English

基礎医学・薬学特論 I

↑いずれか選択 基礎医学・薬学特論Ⅱ

地域医療課題特論 I

η いずれか選択

地域医療課題特論Ⅱ

専門科目

臨床医学特講 必修 必修 健康科学特講

創薬標的評価学特講 神経薬理学特講

基礎薬科学特講

がんに対する医学・薬学アプローチ 必修

1 単位選択

特別科目

A区分

社会医学特別演習、同特別研究 形態機能医学特別演習、同特別研究 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究 B区分

総合医療医学特別演習、同特別研究 器官病態内科学特別演習、同特別研究 器官病態外科学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (薬系も含む) から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程)先進薬学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬学に関する卓越した専門的知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、地域や世界で活躍できる先端的薬学研究者・教育者又は指導的立場から分野横断的に高度先進医療や創薬を含む臨床直結型研究を推進できる高度医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。
- ②薬学に関する卓越した専門 的知識と見識及び専門分野 以外の幅広い知識と見識を 医学・薬学統合領域におい て有している。
- ③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、先端的 な薬学研究や高度先進医療 の課題を発見する優れた能 力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(必修)を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、 幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文 による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目 (選択・必修)を設定する。

薬学分野における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科目では併せて先端的薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習 I 及び特別演習 II 並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1 (特別演習 I)、主科目と違う区分から選択する副科目2 (特別演習 I)を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員が オムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設すると ともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学 B 必修 多職種連携 B 必修 医療情報リテラシーB 必修

ベーシック科目

発展的研究方法論

疫学方法特論
Advanced Academic English
基礎医学・薬学特論 I
基礎医学・薬学特論 I
地域医療課題特論 I
地域医療課題特論 I
地域医療課題特論 I

専門科目

分子生命科学特論 感染症学特論 病理病態学特論B 腫瘍学特論 最新臨床薬理学特論 免疫・発がん特論 神経再生・発生・疾患学特論 死因究明学特論 医療データサイエンス学特論B

特別科目

C区分

物理·化学薬学特別演習 $I \cdot II$ 、同特別研究生命薬学特別演習 $I \cdot II$ 、同特別研究D区分

医療薬学特別演習 I・Ⅱ、同特別研究 臨床・社会薬学特別演習 I・Ⅱ、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習 Iを同区分及び 異なる区分(医系も含む)から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士前期課程)生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学に関する幅広い専門的知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業(製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など)での創薬 などの研究、開発に携わる研究者、医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた生命医療科学(薬科学)研究者又は専門職医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生とし て備えておくべき研究・ 医療倫理、多職種連携、 英語論文による発信方法 等の基礎的知識を有して いる。

②薬科学分野に関する幅広 い知識と見識及び専門分 野以外の知識と見識を医 科学・薬科学統合領域に おいて有している。

③分野横断的な考察力と高 い倫理観を持ち、地域の 保健医療課題等を発見す る能力を有している。

4)積極的に課題解決に取り 組み、その成果を地域に 発信し、社会貢献できる 研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情 報リテラシーを学ぶ共涌科目(必修)を設定する。

分野横断的な幅広い観点から薬科学の基礎的知識を教授することにより、分野 にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を 修得するベーシック科目(必修・選択)として設定する。

薬科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新 の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目(選択・ 必修)を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、高い倫理観、幅広い視野、自ら考えて研究し 課題解決する意欲と能力を修得する特別科目(選択必修)を設定する。本科 目では併せて健康関連企業における課題に積極的に取り組む行動力と資質を 身に付ける。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目として の特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副 科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意 欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学における専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオ ムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するととも に、両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価す る。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織し た論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員 会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理·医療倫理学A 必修 多職種連携A 必修 医療情報リテラシーA 必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論 必修 社会・予防医学概論 必修 必修 Academic English

基礎生体科学特論 生体分子解析学特論

基礎医科学·薬科学特論 I 基礎医科学・薬科学特論Ⅱ 2 単位選択

2 単位

選択

専門科目

人体構造機能科学特論 機能調節薬理学特論 微生物・ウイルス・免疫学特論

病理病態学特論A

臨床医学特論 健康科学特論

医療データサイエンス学特論A

安全科学特論 医薬品開発特論 必修 必修 最先端創薬科学特論 健康機能調節学特論 必修

必修

特別科目

C区分

物理・化学薬学特別演習、同特別研究 生命薬学特別演習、同特別研究 D区分

医療薬学特別演習、同特別研究 臨床・社会薬学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (医系も含む) から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻(博士後期課程)生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、国際的に通用する自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や地域の健康・医療関連企業等(製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など)で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学(薬科学)研究者や大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①本プログラムの学生として 備えておくべき研究・医療 倫理、多職種連携、英語論 文による発信方法等の基礎 的・応用的知識を有してい る。
- ②薬科学分野の卓越した知識 と見識及び専門分野以外の 知識と見識を医科学・薬科 学統合領域において有して いる。
- ③分野横断的な深い考察力と 高い倫理観を持ち、高度先 進医療・地域保健医療の課 題を発見する優れた能力を 有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信する高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要となる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目(選択)を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目(必修・選択)を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目(選択・必修)を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向けて主導的に取り組む意欲と高い倫理 観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目(選択 必修)を設定する。本科目は講義科目としての特別演習及び研究指導科目と しての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門的知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共诵科目

研究倫理・医療倫理学 B 選択 多職種連携 B 選択 医療情報リテラシーB 選択

※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修 の場合、選択

の物ロ、選択

ベーシック科目

発展的研究方法論必修疫学方法特論必修Advanced Academic English必修

基礎医学・薬学特論 I 」いずれか選択 基礎医学・薬学特論 II

地域医療課題特論 Ⅰ コールずれか選択

地域医療課題特論Ⅱ

専門科目

臨床医学特講 健康科学特講 創薬標的評価学特講

] 1 単位選択

神経薬理学特講

2 単位選択

基礎薬科学特講

がんに対する医学・薬学アプローチ 必修

特別科目

C区分

物理·化学薬学特別演習、同特別研究 生命薬学特別演習、同特別研究 DIX分

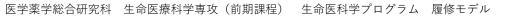
医療薬学特別演習、同特別研究 臨床・社会薬学特別演習、同特別研究 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分 (医系も含む) から1科目選択

医学薬学総合	·研究科 時間	引割(令和6	5年度))																					【資料3】
日付 6限(18:00~19	月曜日	7限(19:40~21:10)	日付		6限(18:00~19:3	火曜日	2	『限(19:40~21:10)	日付	6限(18:00~19:	水曜日		限(19:40~21:10)	п	付	6限(1	8-00~19-30)	木曜日	7限(19:40~21:10)	日付	61	₹(18:00~19:30)	金曜日	71	限(19:40~21:10)
博士前期課程 博士課程				博士前期課	程 博士課程	博士後期課程	博士前期課程		博士前期課	程博士課程	博士後期課程	博士前期課程	博士課程 博士	:後期課程	博:	士前期課程	p士課程 博士	後期課程 博士前期課	图 博士課程 博士後期記	程	博士前期課程	博士課程	, 博士後期課程		
4/1			4/2	2					4/3					4,	/4					4/5					
4/8			4/9	9					4/10		but 66e are 7	NO 440 DD		4/	11					4/12					
4/15			4/1	6					4/17		履修登録 4月			4/	18					4/19					
4/22			4/2	:3					4/24					4/	25					4/26					
4/29	昭和の日		4/3	00					5/1					5,	/2					5/3			憲法計	2念日	
5/6	报替休日		5/1	7		基礎菜科学特		基礎薬科学特	微生物・ウイ 5/8 ス・免疫学報	ル 接学方法特論		微生物・ワイル ス・免疫学特	疫学方法特論	5,	/9 多聯	競種連携A 多顆	t種連携B	多職程連携	多職種連携B	5/10	研究倫理·医 療倫理学A	研究倫理・医療信	油理学B	研究倫理·医 療倫理学A	研究倫理·医療倫理学B
5/13 基礎生体科学 最新臨床薬師 学特論	選 基礎生体科 特論	学 最新臨床薬理	5/1	14		基礎薬科学特		基礎薬科学特	監 依生物・ウイ 5/15 ス・免疫学報	N		盤 微生物・ワイル ス・免疫学特	疫学方法特論	5/	16 多聯	競種連携A 多顆	线程連携B		多職種連携B	5/17	研究倫理·医	研究倫理・医療省	hando	研究倫理·医	研究倫理·医療倫理学B
5/20 基礎生体科学 最新臨床薬 等特論 学特論		学特論 学 最新能床業理 学特論	5/2	21		語 基礎薬科学特		基礎薬科学特	絵 微生物・ウイ 5/22 ス・免疫学報	n		監 微生物・ワイル ス・免疫学特	疫学方法特論	5/			线程連携B		多職種連携B	5/24	SK BRE-PA	研究倫理·医療省	S arm alle as	療倫理学A 研究倫理·医	研究倫理·医療倫理学B
基礎生体科学 最新臨床薬師		学 最新臨床薬理	5/0	10		講 基礎薬科学特		講 基礎薬科学特	微生物・ウイ	r		盤 微生物・ワイル	疫学方法特論	5/		-	t種連携B		多職種連携B	5/01	研究倫理·医	研究倫理·医療信	hall com	研究倫理·医	研究倫理·医療倫理学B
5/27 特論 学特論 6/3 基礎生体科学 最新臨床薬師	特論 理 基礎生体科	学特論 学 最新臨床薬理	3/2			講		詩	5/29 ス・免疫学報	X 7-27 (A-11) (MI		ス・免疫学特 2000年	X-7-2754-1198	3/	(0.	WIENEZ 1/5+1	VIBIGEDID	5* 144 (EAZ DI)	5 WIELETO	6/7	療倫理学A 医療情報リテラ			療倫理学A 医療情報リテラ	
94% 学特論	特論	学特論	6/4	4					6/5					6,	/6						シ—A	医療情報リテラシ		S∕—A nor eta kik en viusus	医療情報リテラシーB
6/10 	y	医療アータサ	6/1	1					6/12					6/	13					6/14	or etchianous r	医療情報リテラシ		≶-A	医療情報リテラシーB
6/17 臨床医学特論 イエンス学特 論R 保護テータ**	臨床医学特	論 イエンス学特 論B 医療データサ	6/1	8		Acres and desired	777 MY 21 HH 70 AA	Autor and Advance for	6/19	war .	AAAW 707 AW AA	A		6/	20	e and the area of the		A40. A41 (1991 A47 1991)	0.70.654	6/21	シ—A	医療情報リテラシ		シ—A	医療情報リテラシーB
6/24 臨床医学特論 イエンス学特 除験テータヤ	等 臨床医学特	論 イエンス学特 会R 佐藤ケータサ	6/2	5 医薬品開発		2 13 000	論	創業標的評価 学特講	6/26 健康機能調 学特論		神経薬理学特講		講	薬理学特 6/	学報	范調節薬理 分子 中論 特別	è	学特論	型 分子生命科学 特論	6/28	/ A	医療情報リテラシ		2 A	医療情報リテラシーB
7/1 臨床医学特論 イエンス学特 陰原マーダ1	臨床医学特	論 イエンス学特 論B を展すータサ	7/2	2 医薬品開発 論		創業標的評価 学特講	Fig. 1	創薬標的評価 学特講	7/3 健康機能調学特論		神経薬理学特 講		講	薬理学特 7,	字形	9786 9778	生命科学		型 分子生命科学 特論	7/5	Periodia	発展的研究方法		1,64,980	発展的研究方法論
7/8 臨床医学特論 イエンス学特 論R	な	医療データサ イエンス学特 論R	7/9	9 医薬品開発 論		学特講	医薬品開発特 論	創薬標的評価 学特講	7/10 健康機能調 学特論		神経薬理学特 講	学特論	請	薬理学特 7/	** 学報	中論 特賞	-生命科学 i	学特論	型 分子生命科学 特論	7/12	(24 pm)	発展的研究方法	AND	SZ4 PRE	発展的研究方法論
7/15	海の日		7/1	6 医薬品開発 論	99	創業標的評価 学特講	医薬品開発特 論	創薬標的評価 学特講	7/17 健康機能調 学特論	節	神経薬理学特 講	健康機能調節 学特論	神程 講	薬理学特 7/	18 機能学報	范調節薬理 分子 中論 特質	-生命科学 第	機能調節薬 学特論	型 分子生命科学 特論	7/19	524 988	発展的研究方法		1,4-4,990	発展的研究方法論
7/22	健康科学特講	健康科	斗学特講 7/2	13					7/24					7/	25					7/26	基礎的研究方 法論	発展的研究方法	lik	基礎的研究方 法論	発展的研究方法論
7/29	健康科学特課	健康科	斗学特講 7/3	00					7/31					8,	/1					8/2					
8/5			8/6	6					8/7					8,	/8					8/9					
8/12	μюΒ		8/1	.3					8/14					8/	15					8/16					
8/19			8/2	10					8/21					8/	22					8/23					
8/26			8/2	27					8/28					8/	29					8/30					
9/2	健康科学特講	健康科	· 学特講 9/3	3 健康科学的	病理病態学特 論B		健康科学特論	病理病態学特	9/4 社会・予防医	感染症学特論		社会·予防医 学概論	感染症学特論	9	/5 生体	本分子解析 中論	医療課題特論 I	生体分子解	f 地域医療課題特論 I	9/6	基礎医科学· 薬科学特論 I	基礎医学・薬学年	お除 I	基礎医科学・	基礎医学·薬学特論 I
9/9	健康科学特講		斗学特請 9/1	0 健康科学特	de en etc (de exc ex		健康科学特論		9/4 学概論 9/11 社会·予防医 学概論			子做關 社会·予防医 学概論	感染症学特論	9/	10 生体	本分子解析 40-20	k医療課題特論 I	学特論 生体分子解			TENNEST OF SE	基礎医学·薬学年	636 Y	条件手付繭 1 基礎医科学・	基礎医学·薬学特論 I
0/16	教老の日	NEMAT1	0/1	7 健康科学特	(STYER (STANCANANA		健康科学特論	論B 病理病態学特	。 社会·予防医	感染症学特論		社会·予防医	感染症学特論	9/	生件	本分子解析	医療課題特論 I	学特論 生体分子解		0/00	基礎医科学・	基礎医学・薬学や	·	薬科学特論 I 基礎医科学・	基礎医学·薬学特論I
9/10	板管休日		9/1	24 健康科学特	See 15		健康科学特論	論B	n/or 社会·予防医			学概論 社会·予防医	感染症子特論	9/	ne 生体	本分子解析 40.40	(医療課題特論 I	学特論 生体分子解		9/20	薬科学特論 I 基礎医科学・	基礎医学・薬学年	636 Y	薬科学特論 I 基礎医科学・	基礎医学·薬学特論 I
9/23	旅行作口		9/2	24 課課件子付	in i		地域作子や開	lik B	9/25 住芸・予めた	感染症学特論		学概論	是完化于竹棚	9/	20 学報	中論	(区水味田竹繭 1	学特論	地域区景景地 1	9/27	薬科学特論 I Academic		7 (88 1	薬科学特論I	
9/30 医療データサ	医療テータ	9	10/	1					10/2 病理病態学	15		病理病態学特		10	1/3	大概次総合 名式	F - 308-7-5 Z .	人休睡治論	拉 伤迹 路 私	10/4	English Academic	Advanced Acades		Academic English Academic	Advanced Academic English
10/7 イエンス学特 腫瘍学特論 論A	R≙A.	P 腫瘍学特論	10/	8		臨床医学特講		臨床医学特講	10/9 納理所懸子 論A 10/16 納理病態学			X¥A		10,		本構造機能 免担 学特論 特別 本構造機能 免担			を 免疫・発がん 特論 を 免疫・発がん	10/11	English Academic	Advanced Acades		English Academic	Advanced Academic English
10/14 次寮データサ	スポーツの日	y	10/1	15		臨床医学特講		臨床医学特請	iiii A			病理病態学特 論A		10,	*** 科字	学特論 特質	è	科学特論	特論	10/18	English	Advanced Acades		English	Advanced Academic English
10/21 イエンス学特 腫瘍学特論 検索テータサ	イエンス学年 絵A 医療テータ	9	10/2	22		臨床医学特講		臨床医学特講	10/23 病理病態学 論A			病理病態学特 論A		10,		本構造機能 免担 学特論 特質		科学特論	影 免疫・発がん 特論	10/25	Academic English 基礎医科学・	Advanced Acades		Academic English 基礎医科学・	Advanced Academic English
10/28 イエンス学特 腫瘍学特論 論A	イエンス学科 除A	推瘍学特論	10/2	29		臨床医学特講		臨床医学特講	10/30 病理病態学 論A	17		病理病態学特 論A		10,	/31 人作	本構造機能 免担 学特論 特別	E・発かん ii	人体構道機 科学特論	影 免疫・発がん 特論	11/1	薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学科	子海(II	薬科学特論Ⅱ	基礎医学·薬学特論Ⅱ
11/4	接替休日		11/	5					11/6					11	/7					11/8	基礎医科学・ 薬科学特論 Ⅱ	基礎医学・薬学科	7 100 44	基礎医科学・ 薬科学特論 Ⅱ	基礎医学·薬学特論Ⅱ
11/11 イエンス学特 腫瘍学特論 論A	22: A	推導学特論	11/1	12					11/13					11,	/14					11/15	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学·薬学科	子海(II	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学特論Ⅱ
	がんに対する医 学・薬学アプ ローチ MA	かんに3 学・薬学 ローチ	対する医 学アプ 11/1	19 最先端創薬 学特論	科 地域医療課題:	特論Ⅱ	最先端創業科 学特論	地域医療課題特論Ⅱ	11/20 地域医療課 搭 <u>給</u>	死因究明学特 論		地域医療課題 概論	死因究明学特 論	11,	/21 安全	全科学特論 生· 验	族患学特	安全科学特	伊柱門王・党 全・疾患学特 論	11/22	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学や	弁論Ⅱ	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学特論Ⅱ
医療アータサ イエンス学特 論A	がんに対する医 医療アータ 学・薬学アプ イエンス学章 ローチ 論A		対する医 学アプ 11/2	26 最先端創業 学特論	科 地域医療課題:	特論II	最先端創薬科 学特論	地域医療課題特論 Ⅱ	11/27 <u>地域医療課</u>	死因究明学特 論		地域医療課題 概論	死因究明学特 論	11,	/28 安全	神和 全科学特論 生・ 論	k件生·光 疾患学特	安全科学特	神経再生・発 会 生・疾患学特 論	11/29					
医療テータサ 12/2 イエンス学特 論A	がんに対する医 医療テータ 学・薬学アプ イエンス学年 ローチ 論A	サ がんに3 学・薬学 ローチ	対する医 学アプ 12/	3 最先端創業 学特論		特論Ⅱ	最先端創薬科 学特論	地域医療課題特論Ⅱ	12/4 <u>排域医療課</u>	M 死因究明学特 論		地域医療護期 概論	施	12	1/5 安全	神社 全科学特論 生・ 論	作生·死 疾患学特	安全科学特	存 性・疾患学特 № 生・疾患学特	12/6					
医療データサ イエンス学特 始ム	がんに対する医 学・薬学アプ イエンス学年 ローチ 始 4	サ がんにす 学・薬学 ローチ	対する医 学アプ 12/1	10 最先端創業 学特論		特論Ⅱ	最先端創薬科 学特論	地域医療課題特論Ⅱ	12/11 <u>地域医療課</u>	死因究明学特 論		地域医療課題 概論	死因究明学特 論	12)	/12 安全	神 全科学特論 生・ 验	作件生·発 疾患学特	安全科学特	神経再生・発 金 生・疾患学特 哈	12/13					
12/16	Zar.		12/1	17					12/18					12,	/19					12/20					
12/23			12/2	24					12/25					12)	/26					12/27					
2/30			12/3	31	-1				1/1	1				1.	/2					1/3					
1/6			1/5	7					1/8					1	/9					1/10					
1/13	成人の日		1/1	4					1/15					1/	16				+ + -	1/17					
1/20	,a,,,,,,,		1/1	11					1/15					1/	199				+ + -	1/17					
1/20			1/2	10					1/22	-				1/	30					1/24					
	+ +																		+						
2/3			2/4	4					2/5					2)						2/7					
2/10			2/1	11		建国际	agのB		2/12	1				2/					1	2/14					
2/17			2/1	18					2/19					2/					1	2/21					
2/24	扳替休日		2/2	25					2/26					2/					1 1	2/28					
3/3			3/4	4					3/5					3,	/6				1	3/7					
3/10			3/1	11					3/12					3/	13					3/14					
3/17			3/1	18					3/19						20	-	-	春分の日	1 1	3/21					
3/24			3/2	25					3/26	+= =	/ c 🗩	/ / >安业	4 2	3/	27					3/28					
									一番	且思兄	.(oH)(貝不	斗) 一2 5-	_											



四丁未	1 1/10/17	ウレフロイエ	时间前(下	7401	100																							L SA 1	P491
0.71	6限(18:00~19	月曜日		1.10)	0.71		大曜日	2	77/10-40 - 01-17	N	0.71	6限(18:00~19:	水曜日	-	FT(10-40 - 01-14		m / 1		限(18:00~19:3	木曜日		FF(10.40 - 01.10)		, e	限(18:00~19:30	金曜日		景(19:40~21:10)	
日付 博士前期			7限(19:40~2 博士前期課程 博士課程		日付程		限(18:00~19:30) 博士課程 博士後期課程		聚(19:40~21:10 博士課程		日付博士前				限(19:40~21:10 博士課程		日付					限(19:40~21:10) [博士課程 博士後期課程	1付 博						土後期課程
4/1					4/2						4/3						4/4						1/5						
4/8					4/9						4/10		履修登録	3-101111			4/11					4	/12						
4/15					4/16						4/17		4,F				4/18					4	/19						
4/22					4/23						4/24						4/25					4	/26						
			_														·												
4/29		昭本	900 B		4/30						5/1	2.48-1		DECEMBER 27.2.1			5/2						5/3			激法	記念日		
5/6		扳作	#休日		5/7		基礎業科学特 講			基礎薬科学特 講	5/8 ス・免疫	学特 疫学方法特論		ス・免疫学特	疫学方法特論		5/9	多職種連携A	多職種連携B		多職種連携A	多職種連携B 5	/10 研	F究倫理·医 R倫理学A	研究倫理·医療	倫理学B	研究倫理·医 療倫理学A	研究倫理・医療倫理	量学B
5/13 基礎生体	科学 最新臨床薬理 学特論	里	基礎生体科学 最新臨床薬 特論 学特論	理	5/14		基礎薬科学特			基礎薬科学特	微生物・ 5/15 ス・免疫	ウイル 学特 授学方法特論		微生物・ワイル ス・免疫学特	疫学方法特論		5/16	多職種連携A	多職種連携B		多職種連携A	多職種連携B 5	/17 研	F究倫理·医 保倫理学A	研究倫理·医療	倫理学B	研究倫理·医 療倫理学A	研究倫理·医療倫理	理学B
							基礎業科学特			語 基礎薬科学特	企 依生物・	ワイル		陰 衛生物・ウイル									_	Copy to said the			99 me x 2 - 3 - 4 - 4		
	科学 最新臨床薬理 学特論		基礎生体科学 最新臨床業 特論 学特論		5/21		洪			清	10/ July 10/	学特 疫学方法特論		ス・免疫学特金	疫学方法特論		5/23	多職種連携A	多職種連携B		多職種連携A	多順程運携5	療	を倫理学A	研究倫理・医療(属理字B	が、調えますび	研究倫理·医療倫理	至夫良
5/27 特論	科学 最新臨床薬理 学特論	Ŧ.	基礎生体科学 最新臨床業 特論 学特論	理	5/28		基礎業科学特 講			基礎薬科学特 講	5/29 ス・免疫	学特 疫学方法特論		ス・免疫学特	疫学方法特論		5/30	多職種連携A	多職種連携B		多職種連携A	多職種連携B 5	/31 妍	F究倫理·医 『倫理学A	研究倫理·医療	倫理学B	研究倫理·医 療倫理学A	研究倫理·医療倫理	星学B
6/3 基礎生体 特論	科学 最新臨床薬療 学特論	里	基礎生体科学 最新臨床業 特論 学特論	理	6/4						6/5						6/6					6	5/7 医	療情報リテラ ・一A	医療情報リテラシ	<i>></i> −В	医療情報リテラ	医療情報リテラシー	-В
77 (48)	-3-177488		77788		0.00						6/12						0.00							- etrikir en itur :-	医療情報リテラジ	- D	ン パ 医療情報リテラ	医療情報リテラシー	- n
6/10	医療デーダサ		医療ケータ	7	6/11						6/12						6/13					ь	y	~—A	本銀用報リアプン		シ−A		
6/17 臨床医学	特論 イエンス学特 絵R		臨床医学特論 イエンス学科 絵R	P .	6/18						6/19						6/20					6	/21 シ	療情報リテラ ・一A	医療情報リテラシ	/-B	医療情報リテラ シーA	医療情報リテラシー	ъ
6/24 臨床医学	医療テータサ 特論 イエンス学特		医療データ 臨床医学特論 イエンス学年	9	6/25	医薬品開発特 Po	創薬標的評価 学特講	医薬品開発特		創薬標的評価 学特講	6/26 健康機能 学特論	2調節	神経薬理学特	健康機能調節 学特論		神経薬理学特	6/27	機能調節薬理 学特論	分子生命科学		機能調節薬理 学特論	分子生命科学 6	/28 医	療情報リテラ ・一A	医療情報リテラシ	<i>></i> −В	医療情報リテラ シーA	医療情報リテラシー	-В
	論R 医療ケータサ	-	除R 次被データ	9	7/2	編 医薬品開発特	創業標的評価	∞ 医薬品開発特		創薬標的評価			神経薬理学特講			評 神経薬理学特		子符編 機能調節薬理 学特論				行編 分子生命科学 。		T THE SECTION AS			TE THAT THE OWNER		
7/1 臨床医学	論R 医療ケータサ	-	臨床医学特論 イエンス学年 論R 医療テータ	9	1/2	論	学特講	ia .		字符講						源						特論			発展的研究方法		TE THE ASL TITLED LAN	発展的研究方法論	
7/8 臨床医学	特論 イエンス学特 論R		臨床医学特論 イエンス学制 論R	P	7/9	医薬品開発特 論	創薬標的評価 学特講	8. 東品開発特 論		創薬標的評価 学特講	大松鄉	2 調明 音D	神経薬理学特 講	延康機能調節 学特論		神経薬理学特 講	7/11	機能調節薬理 学特論	カナ生命科学 特論	<u> </u>	機能調節薬理 学特論	分子生命科学 特論	/12 基	礎的研究方 :論	発展的研究方法	語	1,4-1,900	発展的研究方法論	1
7/15		海	の日		7/16	医薬品開発特胎	創薬標的評価 学特講	医薬品開発特 論			7/17 健康機能 学特論	2調節	神経薬理学特講	健康機能調節 学幹論		神経薬理学特 讀	7/18	機能調節薬理 学特論	分子生命科学		機能調節薬理	分子生命科学 特論 7	/10 E	P. THE SALTER OF LAND	発展的研究方法	在論	基礎的研究方 法論	発展的研究方法論	
7/00		past of makes		ABUSES (MARK	# 7 (nn	MIN .	2-1989			7-19 80			317	7-19 880		107	7 /05	-7-19 MB	17 100		7-19 88	17100			TO THE ART THE STATE OF	+ 90.		発展的研究方法論	
1/22		健康科学特講		健康科学特							7/24						1/25					7	/20 法	。礎的研究方 :論	発展的研究方法	- 100	法論	元戌四年光力抵職	
7/29		健康科学特講		健康科学特	常 7/30						7/31						8/1					8	8/2			ı			
8/5					8/6						8/7						8/8					8	3/9			1			
0.00					0.00												0.00								\rightarrow				-
8/12	1	Щ	の日	1	8/13						8/14						8/15					8	/16						
8/19					8/20						8/21						8/22					8	/23			ı			
8/26					8/27						8/28						8/29					8	/30			1			
0.00		健康科学特講		健康科学特	7 9/3 f	健康科学特論	病理病態学特 陰R	建康科学特論	病理病態学特 Neg		9/4 社会·子 学概論	防医感染症学特論		社会·予防医 学概論	感染症学特論		0.75	生体分子解析 学特論	地域医療課題特	6-20- T	生体分子解析	地域医療課題特論 I g	. E	- 礎医科学・	基礎医学·薬学	46-20- T	基礎医科学・	基礎医学・薬学特別	10- Y
9/2		MERK FT - F-TT MF			_		and any and also also also		Mile 17										PE-WALCH THE PERSON NAMED TO	Time 1	学特論	PERKINSKIKRETTIMI I		C11-2-10 Hell *	Rate IV-1-1 MC-1-1	PERSON A	25 70 FT FT 600 A		
9/9		健康科学特講		健康科学特	常 9/10 前	健康科学特論	病理病態学特 論B	建康科学特論	病理病態学特 論B		9/11 社会·予 学概論			社会·予防医 学概論	感染症学特論			子竹剛	地域医療課題年		生体分子解析 学特論	地域医療課題特論 I 9	※	6年子中的 1	基礎医学·薬学	特論I	基礎医科学・ 薬科学特論 I	基礎医学・薬学特別	âΙ
9/16		教者	き の日		9/17	健康科学特論	病理病態学特 Mar	建康科学特論	病理病態学特 Mar		9/18 社会·予 学概論	防医 感染症学特論		社会·予防医 学概論	感染症学特論		9/19	生体分子解析 学特論	地域医療課題年	寺論 I	生体分子解析 学特論	地域医療課題特論 I 9	/20 基	『礎医科学・ 『科学特論 I	基礎医学·薬学	特論I	基礎医科学・ 薬科学物論 I	基礎医学・薬学特別	≨ I
9/23		\$65 th	李休日		9/24	健康科学特論	病理病能学特 論B	建康科学特論	病理病態学特 論B		9/25 社会·子 学概論			社会·予防医	感染症学特論			生体分子解析 学特論	地域医療課題特		生体分子解析	地域医療課題特論 I 9	X	(礎医科学・	基礎医学·薬学	05 80 T	基礎医科学:	基礎医学・薬学特別	AD I
5/23		361	EN- D	1	5/24 9	MERK TT -F-TT RM	ìàB "	ERNT-PTFRE	論B			RESPONDE TOTAL		学概論	SECHOLO-P-TFRM		5/20	学特論	PERSONAL PROPERTY	T 200 1	学特論	PERKINDRAHITIM I		C11-2-10 Hell *	Rate iv 4. 36.4.	PETRONE A	薬科学特論 I	asseus - ye - mr	**
9/30					10/1						10/2						10/3					1	En En	cademic nglish	Advanced Acade	emic English	Academic English	Advanced Academi	c English
	タサ 特 腫瘍学特論		と旅テータサ イエンス学特 腫瘍学特論		10/8		臨床医学特講			臨床医学特請	10/9 病理病制 論A	8学特		病理病態学特 論A			10/10	人体構造機能 科学特論	免疫・発がん 斡論		人体構造機能 科学特論	免疫・発がん 物論	0/11 Ac	cademic nglish	Advanced Acade	emic English	Academic English	Advanced Academi	ic English
10/14		7-1/-	陰A -ツの日		10/15		臨床医学特課				10/16 病理病(病理病態学特				人体構造機能			人体構造機能		Ac Ac	cademic	Advanced Acade		Academic	Advanced Academi	in the state
	99	741		1	10/13									iii€A							科学特論	特論 免疫・発がん 16		nglish	suvanceu Acaue	nuc Engisii	English		
10/21 イエンス学 論A	特 腫瘍学特論		イエンス学特 腫瘍学特論 除A		10/22		臨床医学特講			臨床医学特講	10/23 病理病制 論A	8-7-11		病理病能学特 論A				人体構造機能 科学特論			科学特論	特論		cademic nglish	Advanced Acade	emic English	Academic English	Advanced Academi	c English
佐寮テー: 10/28 イエンス学	タサ 特 腫瘍学特論		医療データサ イエンス学特 腫瘍学特論		10/29		臨床医学特講			臨床医学特請	10/30 病理病態 論A	8学特		病理病態学特 論A			10/31	人体構造機能 科学特論	免疫・発がん 斡論		人体構造機能 科学特論	免疫・発がん 斡論	1/1 基	『礎医科学・ 『科学特論Ⅱ	基礎医学·薬学	特論Ⅱ	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学特別	â∏
11/4		267.8	₩A		11/5						11/6						11/7	11711111	11100		11 / 17 / 18	,	E	礎医科学・	基礎医学·薬学	05 86 H	基礎医科学・	基礎医学・薬学特別	iii II
医療データ	99	-	後春ケータサ	1	11/0												, .							644-3-44.0M TT			条件子中侧 11		
100 A	特 腫瘍学特論		イエンス学特 腫瘍学特論 除A		11/12						11/13						11/14					11		641-3-44 MH 11	基礎医学·薬学	持論Ⅱ	9861T-J-17788 II	基礎医学・薬学特別	ÀΠ
医療デー: 11/18 イエンス学		がんに対する医 学・薬学アプ	医療テータサ イエンス学特	がんに対する	11/19	最先端創薬科 学特論	地域医療課題特論 II	表先端創薬科 学特論	地域医療課題制	計論Ⅱ	11/20	死因究明学特 論			死因究明学特 論		11/21	安全科学特論	神経再生·発 生·疾患学特		安全科学特論	作証件生・党 生・疾患学特 11	1/22 基	『礎医科学・ 『科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学	特論Ⅱ	基礎医科学・ 薬科学特論Ⅱ	基礎医学・薬学特別	â∏
除A 医療デー: 11/25 イエンス学	特	ローチ がんに対する医 学・薬学アプ	能な 医療テータサ イエンス学特	ローチ がんに対する 学・薬学アプ	w .	最先端創業科	地域医療課題特論 II	 長先端創薬科	地域医療課題制	F論 II	11/27	死因究明学特			死因究明学特		11/28	安全科学特論	神経再生·発 生・疾患学幹		安全科学特論	神経再生・光 生・疾患学幹 11	1/29			 I			
除A 医療データ	99	がんに対する医	除A 医療データサ	がんじ おもと	× 3	学特論 最先端創薬科	7C-9A(10.09A940/2511) 888 22	学特論 最先端創薬科				職 死因究明学特	-		論 死因党明学特				論 神経典生・夢			验 存还再生·基						-	
12/2 イエンス学 絵A	特	学・薬学アブ ローチ	イエンス学特 絵A 医療テータサ	学・薬学アプ ローチ がんに対する	12/3	学特論	7C-94135.09C#C/C2111.000.14	学特論	地域医療課題や	論Ⅱ	12/4	200			論		12/5	安全科学特論	生·疾患学特 验 神経再生·発		安全科学特論	生·疾患学特 1 2000年 2000年 11 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 10 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 20	2/6						
12/9 イエンス学	44	がんに対する医 学・薬学アプ ローチ	医療アータサ イエンス学特 かA	がんに対する 学・薬学アプ ローチ	12/10	最先端創業科 学特論	地域医療課題特論Ⅱ	最先端創薬科 学特論	地域医療課題制	宇論 II	12/11	死因究明学特 論			死因究明学特 論		12/12	安全科学特論	生·疾患学特		安全科学特論	生・疾患学特 12	2/13			l.			
12/16					12/17						12/18						12/19		-			115	2/20						$\overline{}$
		1	 										-															-	
12/23					12/24						12/25						12/26					12	2/27			1			
12/30					12/31						1/1						1/2					1	1/3						
1/6					1/7						1/8						1/9		_				/10						
.,.		1			-/1								-				., 9											-	
1/13		成人	Сов		1/14						1/15						1/16					1	/17						
1/20					1/21						1/22						1/23					1	/24						
1/27					1/28						1/29						1/30						/31						
1/21		1			1/28																		, 01						
2/3					2/4						2/5						2/6						2/7						
2/10					2/11		建国記念	の日			2/12						2/13					2	/14						
2/17		1			2/10			ı			2/19						2/20						/21		$\overline{}$				
2/11		1			2/16																	2	,21						
2/24		振竹	李休日		2/25						2/26						2/27					2	1/28				<u> </u>		
3/3					3/4						3/5						3/6					3	3/7			 I			
3/10		1			3/11						3/12						3/13					2	/14			 I			$\overline{}$
	-	+	+ + +																		の日				\longrightarrow			-	$\overline{}$
3/17					3/18						3/19						3/20	1		#分	v) H	3	/21						
3/24					3/25						3/26						3/27					3	/28			İ			
				-								字杏音具		/ / ン欠 小/	I \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \														

-審査意見(6月)(資料)-26-





○養成する人材:健康・医療関連企業での研究開発や共同研究を支える重要な一員として活躍できる 優れた生命医療科学研究者

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
E23	研究倫理・医療倫理学A	1	1 1 1	1 11/
	多職種連携A	1		
共通科目	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3	2 年次	
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	<u>1</u>		
ベーシック科目	基礎生体科学特論	±		
7 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	生体分子解析学特論			
		1		
	基礎医科学・薬科学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>6</u>		
	人体構造機能科学特論	1		
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論			
専門科目	健康科学特論			
ना भन्म	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論			
	健康機能調節学特論			
	/J \ ≣+	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習	2		
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習		_	
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
חיייתו	形態機能医学特別研究			12
	細胞分子機能医学特別研究			12
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小青十	2		12
	合計	<u>17</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命医科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:地域医療機関等の臨床現場で医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた 専門職医療人

区分	授業科目	1年次	2年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
<u> </u>	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	<u>1</u>		
ベーシック科目	基礎生体科学特論	1		
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ			
	小計	<u>6</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論	1		
本明シロ	健康科学特論	1		
専門科目	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
	小計	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習		2	
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習	2		
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			12
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小計	2	2	12
	合計	<u>17</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程)生命医科学プログラム(医療データサイエンスコース) 履修モデル ○養成する人材:リアルワールドデータなどの医療データを応用した基礎研究を遂行できる医療データ サイエンスに強い人材

区分	授業科目	1年次	2年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
共進行日	医療情報リテラシーA	1		
	小漬+	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	<u>1</u>		
ベーシック科目	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>6</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論			
専門科目	医療データサイエンス学特論A	2		
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	_		
	小計	6		
	社会医学特別演習	2		
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習		2	
特別科目	社会医学特別研究			12
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小計	2	2	12
	合計	<u>17</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命薬科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:健康・医療関連企業での創薬などの研究、開発に携わる研究者及び生命科学系領域の中で ハブとなるような優れた生命医療科学研究者

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
+ 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	多職種連携A	1		
共通科目	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	<u>1</u>		
ベーシック科目	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論 I	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>6</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
専門科目	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
		6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習		2	
	総合医療医学特別演習		_	
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習	2		
	生命薬学特別演習	_		
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
NATE OF THE OWNER	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			12
	物理·10子案子付別研究 生命薬学特別研究			12
	主中架子付別研究 医療薬学特別研究			
	医療条子付別研究 臨床・社会薬学特別研究			
	「	2	2	12
	合計	<u>17</u>	2	12
	ынг	<u> 4 1 </u>		17

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命薬科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた専門職医療人

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
# 22 10	多職種連携A	1		
共通科目	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	<u>1</u>		
ベーシック科目	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	6		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論			
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論	1		
専門科目	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
	小青	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習	2		
特別科目	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			12
	小計	2	2 2 2	12
	合計	<u>17</u>		12
	— ···	<u> </u>	_	

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命医科学プログラム 履修モデル



○養成する人材:健康・医療関連企業での研究開発や共同研究を支える重要な一員として活躍できる 優れた生命医療科学研究者

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
共通符目	医療情報リテラシーA	1		
	小青十	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
ベーシック科目	基礎生体科学特論			
ハーフック/14日	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>5</u>		
	人体構造機能科学特論	1		
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論			
専門科目	健康科学特論			
等1 1/4日	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論			
	健康機能調節学特論			
	小計	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習	2		
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			12
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小計	2	2	12
	合計	<u>16</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命医科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:地域医療機関等の臨床現場で医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた 専門職医療人

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
共進行日	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
ベーシック科目	基礎生体科学特論	1		
ハーフック相目	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ			
	小計	<u>5</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論	1		
専門科目	健康科学特論	1		
寺口行口	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
	小清十	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習		2	
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習	2		
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			12
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小青十	2	2	12
	合計	<u>16</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程)生命医科学プログラム(医療データサイエンスコース) 履修モデル ○養成する人材:リアルワールドデータなどの医療データを応用した基礎研究を遂行できる医療データ サイエンスに強い人材

区分	授業科目	1年次	2年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
六旭行口	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
ベーシック科目	基礎生体科学特論			
. 277144	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>5</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
専門科目	健康科学特論			
41 N4 H	医療データサイエンス学特論A	2		
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
	小計	6		
	社会医学特別演習	2		
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習		2	
特別科目	社会医学特別研究			12
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
	小量十	2	2	12
	合計	<u>16</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命薬科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:健康・医療関連企業での創薬などの研究、開発に携わる研究者及び生命科学系領域の中で ハブとなるような優れた生命医療科学研究者

区分	授業科目	1年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
共通科目	多職種連携A	1		
共進符日	医療情報リテラシーA	1		
	小清┼	3		
	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
* > 500	基礎生体科学特論			
ベーシック科目	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>5</u>		
	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
専門科目	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
		6	2 年次	
	社会医学特別演習	_		
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習		2	
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習	2		
	生命薬学特別演習	_		
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
特別科目	社会医学特別研究			
ם דיניגעון	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	森自病態內科字特別研究 器官病態外科学特別研究			
	新日内版外科学特別研究 物理・化学薬学特別研究			12
				12
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			10
	小青十	2		12
	合計	<u>16</u>	2	12

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻(前期課程) 生命薬科学プログラム 履修モデル

○養成する人材:医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた専門職医療人

区分	授業科目	1 年次	2 年次	1~2年次
	研究倫理・医療倫理学A	1		
#\Z1\D	多職種連携A	1		
共通科目	医療情報リテラシーA	1		
	小青十	3		
	基礎的研究方法論	1	2 年次	
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論			
ベーシック科目	生体分子解析学特論	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	_		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
	小計	<u>5</u>		
	人体構造機能科学特論	<u> </u>		
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論			
	病理病態学特論A	_		
	臨床医学特論	1		
専門科目	健康科学特論	1		
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
	小計	6		
	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態內科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習	2		
特別科目	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態內科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究		_	12
	小計	2		12
	合計	<u>16</u>	2	12